

第四十五回

右門会大会

とき 令和元年八月二十五日(日)

午前十時より

ところ 石川県立能楽堂

番組

素謡

高砂

シテ桃井 文央

ツレ後藤 尚志
ワキ後藤 喜久

地	鈴置	善和	北川	正司	竹松	正和	近藤	紀男
出村	吉男	荒木	克己	平野	繁信	船本	嘉人	
榊蔵	正敏	越田	外志則	長沖	与一	笠間	啓	
原	裕人	宮野	靖	広田	進	青野	一郎	
		松波	拓見	和田	辰巳	島田	義久	

羽衣

シテ山本 信子

ワキ砺波 静子

奥村	美希	荒木	久惠	山崎	文	長基	栄子
山谷内	明子	北川	恭子	水野	三喜代	寺西	外美子
山岸	菊	越田	みちえ	西田	潤子	坂戸	すみえ
		井上	里美	村田	博子	倉本	千鶴子

土蜘蛛

シテ出村 吉男

頼光 榊蔵 正敏
ワキ 鈴置 善和

地頭 近藤 紀男
地 男子 会員

素 謡

右

近

シテ越田みちえ

ツレ北川 恭子

ワキ寺西外美子

奥村

美希

地谷内

明子

山岸

菊

坂戸すみえ
荒木 久恵

舞 囃子

老

松

後シテ...より

青野 一郎

亀井 洋佑
住駒 幸英

麦谷清一郎
江野 泉

高橋 右任
地渡邊荀之助
高橋 憲正

胡

蝶

人とはいかで...より

村田 博子

亀井 洋佑
住駒 幸英

麦谷清一郎
江野 泉

高橋 右任
地藪 俊彦
川瀬 隆士

素 謡

綾

鼓

シテ青野 一郎

ツレ竹松 正和

ワキ北川

正司

地頭島田 義久
地男子会員

鶴

能

龜 和田 辰巳

鶴 笠間 啓

シテ 和田 英夫

亀

ワキ 苗加 登久治

曲入り ワキツレ 平木 豊男

ワキツレ 綿貫 多聞

間 能村 祐丞

後見 高橋 右任

川瀬 隆士

住駒 幸英 江野 泉
亀井 洋佑 麦谷清一郎

地 平野 繁信 渡邊 茂人
広田 進 渡邊 荀之助

長沖 与一 藪 俊彦
近藤 紀男 高橋 憲正

素 謡

三

山

シテ 西田 潤子

ツレ 山崎

文 ワキ 井上

里美

地頭 砺波 静子
地 女子 会員

羽

衣

クセ

松本 一之

独 吟

仕
舞

田村

クセ

荒木 克己

猩猩々々

北川 正司

女郎花

キリ

赤丸 邦夫

養老

長沖 与一

清経

キリ

後藤 喜久

枕慈童

宮野 靖

羽衣

キリ

中村 桂子

天鼓

山崎 文

桜川

クセ

長基 栄子

三笑

船本 嘉人

地
高橋 右任
藪 俊彦
川瀬 隆士

地
川瀬 隆士
高橋 右任
高橋 憲正

地
川瀬 隆士
高橋 右任
高橋 憲正

地
高橋 右任
渡邊 荀之助
渡邊 茂人

素 謡

是

界

シテ平野 繁信

ツレ近藤 紀男

ワキ荒木

克己

地頭長沖 与一
地男子会員

舞 雛 子

箴

今は何をか…より

広田 進

亀井 洋佑
住駒 俊介

江野 泉

高橋 右任
地渡邊荀之助
渡邊 茂人

卷

絹

そもそも当山な…より

竹松 正和

亀井 洋佑
住駒 俊介

麦谷清一郎
江野 泉

川瀬 隆士
地高橋 右任
高橋 憲正

鞍馬天狗

よくよくこの一大事…より

島田 義久

亀井 洋佑
住駒 俊介

麦谷清一郎
後藤 尚志

高橋 右任
地藪 俊彦
高橋 憲正

小鍛冶

シテ原

裕人

素 謡

ワキ林 友次
ワキツレ河原 秀昭

地頭和田 英夫
地男子会員

岩 船

我は又下界...より

和田 辰巳

舞 囃子

亀井 洋佑
住駒 俊介
後藤 尚志

高橋 右任
地藪 俊彦
高橋 憲正

安 宅

げにげにこれも...より

笠間 啓

亀井 洋佑
住駒 俊介

江野 泉

高橋 右任
地渡邊荀之助
渡邊 茂人

素 謡

井 筒

シテ倉本千鶴子

ワキ村田 博子

地頭山本 信子
地女子会員

番外仕舞

歌占

キリ

高橋 憲正

渡邊 茂人

葛城

キリ

高橋 右任

地
渡邊 荀之助
藪 俊彦
川瀬 隆士

素 謡

シテ長沖 与一

竹生島

ツレ松波

拓見

ワキ越田外志則

地頭宮野

靖

地男子会員

付祝言 五雲

以上

午後五時半頃終了予定

能解説

能「鶴 亀(曲入り)」つるかめ

昔の中国では新春に宮殿で四季の節会の最初の儀式が行われました。

時は八世紀のはじめ、唐の玄宗皇帝の御代、賢王の治下にあつて天下は泰平です。皇帝が月宮殿に行幸なる由を触れ回ります。不老門に皇帝が大臣たちを従えて現れ長閑な日の光をご覧になります。参内の官人はひきもきらず、万民が天に響く祝賀の声を上げます。宮殿の庭には金銀の砂が敷き詰められ、扉も階段もいろいろな寶石で飾られてまばゆいばかりです。

池の水ぎわに遊ぶ鶴と亀がこのよき年を願う皇帝の長寿を讃えて舞を舞います。皇帝も喜び、国土繁栄を祈ってみずから舞い、やがて御輿に乗って長生殿へ還ります。

鶴と亀のはなやかな相舞、シテの荘重な(楽)が対照的な見所の多い曲です。

曲入り(小書きといわれる特殊演出の二つ)

初回の終わり「君の恵みぞありがたき」の後に、常には演じられない謡と舞(舞グセ)が入ります。

入場無料です。

どなたでもお誘いあわせ、お出でください。

右門会

〒920-0951

金沢市花里町八十八

高橋右任

(TEL 076-232-0756)